

## 第9回青梅市総合長期計画審議会会議録（概要版）

- 1 日時 平成24年10月9日（火）午後3時～午後5時
- 2 場所 青梅市役所議会棟 3階 大会議室
- 3 出席委員  
篠原委員、館委員、山井委員、杉村委員、安間委員  
野崎委員、志村委員、稻葉委員、岩田委員、村野委員、林委員
- 4 議事
  - (1)会長あいさつ
  - (2) 第6次青梅市総合長期計画原案の検討
  - (3)その他

（配布資料）

- 資料1 第8回審議会意見等の分野別整理  
資料2 基本構想・基本計画素案市議会議員意見概要  
資料3 第6次青梅市総合長期計画原案（第3稿）  
参考資料1 分野別施策体系図

第9回審議会会議録（概要版）

発言者	会議のてん末・概要
会長	(開会)  本日の審議会が第9回目になります。次回が最終回の第10回目となります。本日は、これまでの調査・審議を踏まえた第6次青梅市総合長期計画原案が市の方からたたき台として示されていますので、これについて皆さんのお意見を今までと同様に伺って議論していきたいと思います。まず事務局からの説明をしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。
事務局	今後のスケジュールおよび総合長期計画原案（基本構想から基本計画第2部各論の第4章まで）について資料に沿って説明
会長	10章全部では膨大なので、途中で区切ってということになりました。4章までについて質問あるいはご意見はありますか。
委員	「森林」について、48ページの基本方針で「企業との連携や」という表現があるが、基本施策では、特にそれに関する記述があまり明確には出ていない。具体的どういう企業とのどういう連携をイメージしているのか教えてほしい。
事務局	森林分野における基本方針あるいは基本施策の2「市民参加型の森づくり」の中で、企業との連携について触れさせていただいていますが、青梅市の約63%を占める森林の部分において、民間所有の山林も多く、今、企業の森づくりで、具体的には東芝、いなげやといった企業の森を市内で位置付け、活動しているところがあります。そういう企業の森等を今後10年間の中では、森林保全あるいは、森林に親しむという視点で、市も実施計画の中で具体的に連携を図り、検討していくというものです。
委員	企業のイメージアップや社会貢献ということで森林にからめて活動されていることを、ここでは記載しているということですね。 続けて、「図書館」について独立したということで、いいことだと思う。特に分館とのネットワークについて、青梅の地域性や、地勢的な条件、交通条件から、各地区の連携が難しい街と印象を持った。その関連で、医療もそうだが、こうした図書館の機能について、地区ごとの連携でどこの地区でも平等に市民があまねくサービスを受けられることは望ましいと思います。
会長	他にいかがでしょうか。
委員	何点かあるのですけれども、37ページ「防災・消防」について、現状と課題で「立川断層帯地震における青梅市の被害の規模は、今

	<p>までの多摩直下地震に比べ最大震度7の」という表現があるが、何を比べているかわからない。誤解を生む表現ではないかと思います。</p> <p>また、33ページ「財政見通し」について、目標人口を将来人口の推計より多く設定している中、人々が青梅にきて安心して暮らせる、少なくとも財政的に将来に希望が持てるような、そういう街であるというような数字で、これがどうしたら実現できるかということを書いてあるべき。10年後に青梅市としては、このような施策によって財政改善を図るといったことを記載しないと、絵に描いた餅になってしまうと心配している。</p> <p>先ほど「森林」の話がありましたが、企業が森林の育成に前向きになっていますけど、木の種類はスギ・ヒノキか、広葉樹なのか。山々を見て10年前と比べると広葉樹が増えていると思います。広葉樹が増えるとクマが出没しやすくなるのではと思うが、実際はどうか教えてほしい。</p> <p>「図書館」について、前回の審議会資料では図書館が生涯学習の中に位置付けられていた。しかし、生涯学習にとどまらず、図書館は重要な位置を占めるので重複しても生涯学習の中で触れておく必要があると思いますが。</p>
会長	4点について質問あるいは意見がありました。
事務局	<p>最初の33ページの財政の見通しの件ですが、借金が増えていくということで、平成13年以降、建設債以外の赤字地方債により一般会計における起債が増えていますご指摘のとおりですが、今後の改善について10年間の見通しを精査しているところです。なお、起債については、このページではなく、132ページから「健全財政」の記載がありますが、その最後の「財政見通し」で、133ページ以降について、一般会計・特別会計について、個別の起債も含めて、記載の上、全体的な10年間の数字については、最初の33ページに示したいと考えています。</p> <p>次にご指摘いただいた37ページ、現状と課題については、表現について、わかりやすい表現に改めたいと思います。</p> <p>それから、48ページのスギ・ヒノキの表現ですが、混交林化や花粉の少ないスギへの植栽など、東京都と連携した様々な制度を活用して花粉の少ない森づくり運動に努めていますので、そういう点を踏まえた対応を図りたいと考えています。</p> <p>66、67ページの生涯学習分野における図書館の活用の表記については、よく検討させていただきたいと思います。</p>
会長	それでよろしいでしょうか。広葉樹になるとクマが増えるのではという質問がありましたが、それは専門家と議論しないと簡単にはわからないのでは。
事務局	つい先だっても青梅市内の山林でクマが出没したという情報もありました。現在、飯能と連携して対策を講じているところです。また、広葉樹化でクマの生態というのを助長するかについて専門家に少し確認してみたいと考えています。

会長	よろしいですか。他にいかがでしょう。
委員	<p>今回の原案で、あまりいじくられていない部分で少し気になった部分だけ申し上げたいと思います。</p> <p>5ページ以下、色々書いてありますが「青梅市のあらましとまちづくりの歩み」を始め全体的に句読点や重複した言葉、「また」といった表記が多いので、文章をもう少し整理をしてもっと楽に読めるようにした方がよいかと思います。</p> <p>6ページの「本市の特性」では、「都市基盤・産業・観光・雇用においては」の中で「集客能力の高いイベントも多数あります。」という表現がある。確かに集客力はあると思うが、ここで問題となっているのは、この集客力が下がっていることだと思うので、この表現では、問題がないように読めてしまうと思います。</p> <p>8ページの「市民の期待」について、本文が全くない。ここに位置付ける理由があるのだから、「市民の期待」としてどのように整理して表現していくのかが必要だと思います。</p> <p>10ページに入りまして、「まちの現状と認識と課題」について、課題が書いてある部分と方向性として書かれている部分が混ざっている。課題と方向性という形でもう少し整理した方が分かりやすいのではと。もう一度ご検討いただければと思います。</p> <p>それから「図書館」について、施策分野として独立させたことはいいと思いますが、その中で表現される図書館というのは、在来型の本を並べ、来てもらって選んでもらうだけの図書館ではなく、図書館という名前を使っているかもしれないが、そこへ様々な世代の方々が集まり、情報発信や集約する機能、ITも含めて便利に使って、市民の意見が聞けるような新しい形の図書館になればと思います。</p>
会長	何点か指摘がありましたので。
事務局	<p>ご指摘を踏まえて、全体的な文章については、市民に読んでいただき、市政に参加していただくという1つの長期計画の目的もありますので、市民に分かりやすい表記あるいは文章の計画となるよう最後まで推敲します。また、8ページの市民の期待につきましては、その意図を踏まえて整理をします。</p> <p>10ページの認識と課題、これまでの審議会でも何回かご指摘をいただいて、整理をしてきましたが、課題、方向性含めまして、もう一度検討、整理をしたいと思います。</p> <p>図書館については、これまでご指摘がありました情報発信、情報集約といった情報の視点も含めて、図書館を分野として独立させた部分もあります。ご指摘の部分を踏まえて検討したいと思います。</p>
会長	図書館については、最近、色々な言葉遣いがあって、図書館と言わば情報交流センターといった表現をしている例もあるし、情報発信や交流が行える場所であることがわかるよう「図書館（情報交流センター）」といった表現にした方がいいかもしれない。
委員	青梅は図書館と市民センターが併設されているので。

会長	ただ市民センターと表現してしまうと、図書館かどうかわからなくなるので、少し表現の工夫を。
委員	61ページの「学校教育」について、基本施策「学力・体力の向上」で人権教育が表現されているが、「心の教育の推進」に入るのではないかと思う。「心の教育の推進」では、不登校やいじめが起こった時に対応することが書いてあるが、起こる前の予防教育ということで、人権教育をしっかりとしていじめや不登校をなくす予防という教育の文章を入れてほしい。発生してからの対応よりも発生を防ぐということを小さい時からきちんと教育していくことは、とても大事なことだと思います。
会長	よろしいですか。
事務局	検討させていただきます。
会長	検討させてじゃなくて追加では。他にいかがでしょうか
委員	<p>とりあえず4点ほど、ご指摘をさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、「防災・消防」になるかと思いますが、「災害対策」といったくくりにしていった方がいいと思っています。一つは防災として、将来起こるかもしれない災害に対して備える観点、もし災害が起こってしまった時の観点で分類していくのがいいのではないか。災害が起こってしまった場合に、青梅市が被災地になった場合、他が被災地となった場合のすみ分けをして、そこに向けて今後5年、10年かけて対応策を考えいくことを提案させていただきます。防災対策と災害後といったくくりにしていった方が、その先の計画がつくりやすいのではと思います。</p> <p>次に「学校教育」に関して、前回の審議会で委員から、教育の現場において問題解決型だけではなくて、新しく開発型という思考を取り入れた教育についての提案がありましたが、それに賛成です。もう少し大きな目標を掲げてもいいと考えます。例えば、コミュニケーション能力を高められるといった教育体制を検討していく。それが実際の社会あるいは世界で通用するようなものを、青梅の教育現場に子どもを預ければそうした能力が身に付くといった目標設定があつてもいいと思う。それに向けてどういう教員を確保していくのか、これまで社会で活躍してきた定年になつた方などに教育の現場に入ってもらい、これまでカリキュラムで作られたものではない部分の力というものを、地域力の中で教育の分野に取り入れてもいいと思います。</p> <p>次に「歴史・文化・芸術」について、文化的な活動、歴史・芸術・スポーツなどを支えるためにはどうしても資金が必要だと思う。そういう活動している人を積極的に支援するといった文言を記載した方がいいのではないか。それは、7章の新しい産業や新しい観光のスタイルを作っていくといった部分でも同様ですが、支援をするという体制を10年かけて作っていき、人材やシステムができてきた時には、それが青梅市に新たな潤いをもたらす可能性が十分にあるので、それを10年かけて育てていくということを意識した文言を入れてほしい。</p>

	<p>「図書館」については、中央図書館が河辺にてきて利用者が倍増したことはとても評価している。それをさらに発展させて情報ステーションになっていってほしい。10年後には、図書館の機能の他に、青梅の情報ステーションで情報を求める人がそこに行けば生活情報も含めて情報を得ができる窓口となり、24時間営業で、時には新しい産業のための企画会議がそこで開かれているような場になってほしいと思う。ネーミングの問題もありますが、情報ステーションに図書館を育していくような目標を定めてほしい。</p>
会長	細かい話では無くて、方向性として新しい方向を打ち出してもという話ですが、これについてはどうですか。
事務局	はじめに災害についてですが、いわゆる防災は備えること。次に発生時の対応、また、市内で災害が発生した場合、また、市内では大きな被害はないけれども、近隣での支援応援、そういった点は、今、青梅市の地域防災計画の中でも検討していますので、よく整理していきたいと思います。
会長	これは以前から委員が言っていたことだな。
事務局	2つ目の学校教育でのコミュニケーション能力を高めるという、そういう点ですが、前回委員から基本施策について違う切り口からの記載といったご指摘がありましたが、再度、表記について、研究して、調整させていただきたいと思います。
	全般的な人づくり、支援体制については、様々な分野での人材の育成というのが必要ですので、各章において人づくり、支援づくりについての記載について加えたいと思います。図書館については、ネーミングを含め、良い表現を探したいと考えています。
会長	よろしいですか、他に。
委員	「学校教育」の62ページ「心の教育の推進」で確認だが、「スクールソーシャルワーカーの活用を検討」と記載がありますが、文章で推測すると、スクールカウンセラーは入っていると思いますが、スクールソーシャルワーカーについては、入っていないのであれば、「導入」という表現にした方がいいのでは。
会長	いかがでしょうか。
事務局	ご指摘の通り「導入」と言う形で表記、調整します。
会長	それから、6ページに戻りますが、「本市の特性」の「都市基盤・産業・観光・雇用においては」で「集客能力の高いイベントも多数ある」と書いてあるだけで、観光客数が落ちていることが表現されていないところは修正が必要では。 では、後半の説明を宜しく願いします。
事務局	総合長期計画原案（基本計画第2部各論の第5章から第3部まで）について資料に沿って説明

会長	<p>それでは、後半の分について質問あるいはご意見ありましたらどうぞ。</p>
委員	<p>5章または6章になるのか、心の病に対する対応について、今の世の中自殺をしてしまう人が相当多いという現状を踏まえた場合、年齢に関わらず人々の心を軽くするような施策として1つの項目を立てて記載してはどうでしょうか。</p> <p>次に、第7章になりますが、「商業」について、現在記載のあるものをもう一歩進めたニュアンスがあるといいのではと思う。大型店舗と個人経営店舗がありますが、青梅の魅力の1つは、個人経営店舗でかつ対面販売というところにある。商工会議所が取り組んでいる「まちゼミ」という活動の反省会に参加したときに感じましたが、お店の名前や場所は知っていても、そこで誰が働いているのか、その店の中身を知らないことが多い。反省会で各店舗の方が互いの顔や取組を知り、横の情報のつながりを作っていくことが非常に重要であり、商店街活性化の一番の近道になると実感を得ています。対面販売の強みは、お客様と話したときに、例えば花屋に来たお客様にお茶のことを聞かれたら、おいしいお茶の情報を知っていれば勧められるようなことができる。そうしたことが商店街の強さになるので、そういう部分を計画として立てて支援していくといったような文言を入れてはどうか。</p> <p>「観光」について、見直した方がいいところがあるのでは。以前、審議会委員の方の意見で「御岳山は世界に通じる遺産である」という話があり感銘とショックを受けた。確かに御岳山は世界に訴えられるだけの力を持った資源があり1,000年を超える歴史、山間の集落が独自の文化を保ってきたなど、ペルーのマチュピチュより深いものがあるはずなので、観光の施策の中で位置付けを明確にしていく必要があるのではと思います。</p> <p>また、来訪者の観点で言うと、注目しておいてほしいのは、自転車で訪れるサイクリングの人やラフティングやボルダリングなど御岳の自然環境の中で色々できることをしている人は多く、かつリピーターである。こうした人をお客様として迎えて、御岳エリアが日本の中の聖地であるというような位置付けで考えて観光の施策を展開していくことが重要である。現状そういう人たちにやさしい環境ができているとは思えない。こういう人たちが毎週のように来て、場合によっては、青梅駅で自転車を組み立てそこからスタートしている人たちが、青梅の街の中で30分でも滞在していただければ経済効果が生まれると思います。</p> <p>次の第8章について、ライフラインというものを行政が責任を持って市民に提供するというようなある種の宣言。特にエネルギーに対して、安定して市民活動が営めるようなエネルギーを提供していく策を盛り込んでいいともいいと思う。</p> <p>第9章について、様々な提案をする団体がいますが、結論的には行政には頼れないことが多いと思うので、そうではない青梅市になってほしい。市民から良いアイデアが出てきたらそれを受け入れる窓口があり、精査するにしても、積極的に支援していく体制が必要ではないでしょうか。</p> <p>最後に「情報推進・活用」について、IT関連のものは目的を達</p>

	<p>成するためのツールであるという位置付けをきちんとしておくべき。IT化が進んでいったことで目的を見失うことが多々ある。実例で、教育の現場で問題があった場合に、報告書を提出するというルールがある、IT化で便利になってメールで報告する。教員の方々は、メールで報告書を出した時点で業務が終了したと思うケースが多い。上司もメールが届いたことで読まないで終了と思ってしまう。本来はそのメールに書かれた内容を、会議をするなどして改善していくとするプロセスが重要であるのにそこを見失うというケースが、IT化が進んでいくと往々にして起こりうる。大事な目標を見失いがちなので、ITの積極活用ということに集約されてしまうが、目的を達成するために最大限に上手に活用するための手段であるという考え方を文言で表してほしい。これが起こるパターンで、現場判断がなくなってしまう。現場判断が重視される環境でないと、上司が責任を持って部下を動かす環境でないと、色々な企画などが伸びてこない。そういうふうな位置付けでITというものを語っていただけたらさらにすばらしいかなと思います。</p> <p>それで、最後の「施策連動型のしくみ」は、非常に賛成で、何かが生み出されるようなもの目標に設定し、部署の垣根が取り払われ、そこに全力で取り組むようになればと思う。もう少しボリューム的にあって、市民の方に分かりやすいようにしてほしい。こういう形で色々なものを進めていきますということを示していただけたらと思います。</p>
会長	何点かありましたけど。
事務局	<p>最初のいわゆる心の病、不登校から始まりひきこもりなどもありますけど、ゲートキーパーとかそういう視点を含め、第5章「予防・健康づくり」の中で記載を考えたいと思います。</p> <p>商業のところの対面販売等については、後ほどまた、7月に商工議所さんの事業もありますので、後ほど、今日は、会頭もいらっしゃりますので、そういったものも踏まえてさらにご答弁させていただきたいと思います。</p> <p>それから、観光の面での御岳山等の記載については、さらにトーンを上げたいと思います。</p> <p>それから、ライフラインの件ですが、これは特に電気、55ページをご覧いただきたいと思いますけど、「循環型社会」の中で再生可能エネルギー施策のところで捉えたところです。</p> <p>それから、10章のところでの市民意見、あるいは情報については、さらにまた、ITを含んだ目的達成のツールというところの観点からの表記にトーンを上げたいと思います。</p> <p>また、施策連動型のしくみについては、さらにボリュームアップを図ります。</p>
会長	商業に関連して、八王子市の街路整備を手伝った際に、八王子は大きな街なので、商店街が分かれている、他の商店街のことを知らないことが多いがあり、全体で何かやろうということがなかなか難しいということがあった。最後に街路灯ぐらい一緒のデザインでやろうと納得してくれた経緯がある。青梅の場合も「あそこに行けばいいよ」といったそういう話はあまりないのか。

委員	青梅で商店街というと、商店街は旧青梅町を中心とした商店街が圧倒的な存在感を持っていました。地理的条件があるにしても青梅のシンボリックな文化の源泉でもあり、コミュニティもある旧青梅市街に集中していた。新町や東部地区は工業も含め発展したが、非常に交通利便性もあって大型店が出店して、商店街があまり発展していない。青梅で言うと文化やコミュニティ、青梅市のアイデンティを考えると商店街が必要である。商店街がガタガタになると、からうじて青梅駅のところでこらえているところがなくなると固定資産税などの租税担保能力も低下してしまう。青梅市といえば青梅商店街だし、それ以外のところは郊外型と大きな商店街の周りのコミュニティまたはコミュニティの周りのちょっとした便利な商店街という形である。
会長	わかりました。例えば、私が青梅市に来たときに、おいしい蕎麦屋で食べたいとか、青梅らしいものは何ですかって、そういう店がないところで聞いても、お店をいくつか紹介してくれるといったことがホスピタリティのあるところではないかと思いますが、そういう部分が弱いと感じたので、こういう質問をしたのですが。
委員	他店の紹介をすごく積極的にしてくれるお店もありますが、青梅市全体としては、まだまだ弱い部分があります。「まちゼミ」の反省会で、青梅市内の商店がその場で初めて会って、知らないお店のことを知るチャンスがあった。それが冊子やインターネットに載つたりして少しずつ整理されていくことで強くなってくると思う。今はトータルとなった冊子がない。
会長	それから、ITは手段であるというのは、その通りだと思うし、それから非常に重要なことで委員が言われた、9章について、市役所ができるることは限界があるので、むしろ今まで以上に市民や団体が全面に出てきて、相互の連携を取り持つことや、支援することが市役所の役割になることで、活気のあるまちになっていくと思う。
委員	「まちゼミ」に参加するという意思を持ったお店のネットワークを商工会議所は大事にしなければいけないと思う。自分のお店に自信があるからこそできるわけで、商工会議所でそのネットワークを使って何かができるようにしてはどうか。
	第6章の、「（「地域福祉」）「人にやさしいまちづくりの推進」の中でユニバーサルデザインという言葉が一般的な言葉として受け入れられてきている。色々な本を読む機会があり、その中でユニバーサルデザインは、あまり障害者の立場から考えて作られていないらしいということが分かった。都市計画の専門家が障害をもった段階で検証したり、医師が障害をもって検証したときにあまり使いやすくないらしいとわかったとのこと。可能であれば本当のユニバーサルとは何なのか、本当の福祉とは何か、深く検証していくようなことも必要なのでは。青梅が日本で一番住みやすいまちを目指すなら、本来のユニバーサルということを大学や色んな関連と連帯して考えていく必要がある。
	それと、やはり青梅市というはある意味とっても優れた街だな

	ということを、病を得て感じるところが非常にあって、私は再評価したいなと思いました。以上です。
会長	<p>わかりました。ユニバーサルの話は、長期計画の話なのか、もう少し前の根本的なまちづくりの話なのかどうかがありますが。</p> <p>「ぷらっとフォーム」について、説明が1ページしかないがどうなるのか。かなり具体性が出てきて審議会も他でもなんとなく期待しているところもあるので、それが1ページということはないのではないか。</p>
事務局	<p>今回、施策連動型のしくみとして捉え、サブタイトルとして「ぷらっとフォーム」としました。「ぷらっとフォーム」という、ネーミングから含めた定義などについて議論していただきご指摘をいただきました。また、議会でも議論をいただきました。どうやって具体的、具現化していくかが大きな課題であり、協議体をどうしていくのか、これまでの市主導のいわゆる協議会ではなく、市も1つの参加者とした協議体で議論をし遂行していくということを踏まえたいた思っています。今日の議論でも、市役所だけでは限界があり、いかに協働、連携していくかが大きな視点であると考えています。</p> <p>まず、基本計画で考え方を示して、具体的な仕組みづくりが重要だと考えており、審議会、議会、市民からご意見をいただく中で、これを育てたいと思います。次回には、内容と仕組みを理解していただけるような部分をテーマも含めて出したいと考えています。</p>
会長	<p>前回、審議会の資料では具体的なテーマの例示があった。この取組の課題は、うまく連動できるテーマを設定すること、テーマに対応した仕組み、人材をどうしていくかという点なので、できるかどうかは別にしてテーマ、人材、仕組みに関しては例示した方がいい。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいた通り、テーマ、仕組み、そして協議体の部分についての考え方は、今の現行の計画の「チャレンジプログラム」なども継承して、次回、示したいと思います。</p>
会長	他にいかがでしょう。
委員	<p>78ページの「医療体制・市立総合病院」になります。青梅市は市立病院を持っており、ほとんどの方が、治療が集束・完結できるということで非常に敬意を表しています。危機管理ということだと、例えば、新型インフルエンザが発症した時の、発病した方々の隔離の問題、急激な拡散があるような場合の対応、あるいは、テロも含めてN B C（核・生物・化学）関係の災害があった時の除染・除菌の問題など、消防で搬送はぎりぎりできるけれども、行く先がないとダメなんですね。是非、医療体制の中でそういう危機管理のことを少し触れていただければありがたいなと思います。</p> <p>前に宮崎市で鳥インフルエンザが発生した時に宮崎にいた。また、その前に口蹄疫の問題が発生し、大量の鳥・牛を殺処分していた。青梅の場合もそうした家畜を含めて動物がいないわけではないので、こうした対応について記載してはどうでどうか。</p>

	<p>先ほど自転車の問題が出ましたが、自転車については自動車からは邪魔だといわれ、歩行者からは危険だといわれ、非常に立場が難しい現状があります。青梅では自転車に乗っている人が少ないと感じた。山坂が多いことやダンプが通り危険だということがあると思う。自転車に乗って少しでも体力鍛成に努められる都市整備が必要なんだろうと。また、歩行者も自転車も回遊して楽しめるルートを設定して、青梅までは一般的ではないが輪行して、こちらで自転車に乗って回遊できるようになるといいと思う。</p> <p>また、多くのお客様に来てもらうためには自転車を安心して駐輪できる場所も必要だと思う。あるいは犬を連れてきたら安心して犬といられるような場所がより多くできるといい。</p>
事務局	<p>まず新型インフルエンザ等は、危機管理の面もありますので、この78ページ医療体制に記載するか、「防犯・消防」の地域防災体制の中で記載するか、記載場所も含めて対応したいと思います。また、口蹄疫、動物・鳥インフルエンザ等、市内にも畜産農家あり、農業、林業、畜産の中で記載が可能かどうか検討します。</p> <p>動物のウイルスはありませんでしたが、青梅市では梅の方がウメ輪紋ウイルスということで大きな被害がでていますので、いわゆる鳥、牛等のウイルスの記載についてもよく検討します。</p> <p>サイクリング、回遊性といった部分については、観光の側面、「都市形成」の中での中心市街地の取り組みの中でも活性化に生かしていくか、地域資源を点から線で結んで活性化に結び付けていく視点も含めて、あるいは公共交通の1つのツールとしてもサイクリングはどこに位置付けていくかも含めて対応します。また、サイクリングについて1つの側面としては、72ページ、73ページの「スポーツ・レクリエーション」の中では、基本施策において「青梅市スポーツ推進計画の策定と施策の推進」の中でいわゆる有酸素運動、あるいは地域資源を生かした青梅ならではのスポーツ振興、レクレーション振興といったところで生かしたいと思います。</p> <p>また、既存の市の作成している観光マップの中では、ハイキング等の距離、あるいは所要時間等について案内をしているところです。</p>
会長	<p>危機管理といっても、防犯や災害などどこにでも入るので、医学的な点として疫病関係の話が欠けているということなので第5章に位置付けた方がいいのではと思う。とは言っても一市町村の対策には限りがあるが記載しておく必要はある。</p> <p>また、自転車を公共交通機関とするのは、誰でも使えるシェアリング自転車として自動車と同様管理をして使うものである。指摘のあった自転車を楽しめるような道を整備することは、日本では道が狭いから頭を悩ませている。</p>
委員	<p>自転車に関連して、道路を整備するのは難しいが、自転車に乗ってきた人が休める休憩所みたいのを設定してはどうかと思う、そういう人はリピーターであり、青梅を無料で宣伝してくれる人なので、自転車に来やすいまちとして環境づくりをすれば、道路整備は後からついてくると思う。</p>

会長	わかりました。そこは盛り込んでは。
委員	青梅マラソンに出るためではなくて、都心から青梅市にランニングに来て、入浴してという方も結構いる。青梅はマラソンとかをテーマにした健康の街として全面に出したらどうかという話もある。駅前の観光案内所を充実してくれれば休憩ができる自転車の組み立てもできるスペースにすることが第1歩では。
会長	自転車で走るとかたまり場といったことは第8章で対応し、それが第8章の観光でも出てくるというところでしょうか。
委員	施策連動型の施策展開があるが、プラットフォームと言っても普通は分からぬ。基礎や土台と言ってもなかなか分からぬ。プラットフォームが何なのかと考えると、ハードとソフトとの間にあるもので、例えば、お金と情報ということで、ハードはインターネット、ソフトは全国の商店であり、それをうまく組み合わせることで儲けを生むようなものがある。JRやJTBもプラットフォーム型で、これまでハードだけ整備すればよかつたが、全国にある旅館やそこを回遊して一日過ごせるということを結び付けて、それと情報を組み合わせられることが重要。
	青梅の施策は色々あるが、それをひとつで完結することはできない。今の話も、自転車と電車と徒歩を組み合わせると観光できる。ひとつの目的が完結できる。施策もそうで、ひとつひとつでやろうとすると、例えば、家庭で子どもたちがやりたいことをはじめに並べても、父親の給料は減ってきて、お金をかけぐことはやってもらいたいが、そういう中でプラットフォーム的な思考で結び合わせることなのではないかと思う。もう少し市民に分かりやすくうまく説明していただきたければ、長期計画においてこういう政策手段が大事なんじゃないかということが分かると思う。
	それから「まちゼミ」は全国でも取り組んでいるところがあまりないので多いにPRして下さい。
会長	プラットフォームについては、元々は様々なことを議論する場を設けるという意味だと思うが、この使い方を次回までに整理する必要があるかと思う。
委員	「農業・林業」のところで、確かに課題は沢山あるが、施策を見ると本当にこれが施策なのかと思うところもあるが、この中で「農地や森林が持つ多面的公益的機能の保全」とあるが、農地や森林にはこうした役割があるという具体的な多面的な機能を書き加えてほしい。景観や自然、避難場所もあるので。
	また、PPV（ウメ輪紋ウイルス）の被害がかなり深刻な状況になっています。そのことが基本施策（「安全で多彩な農業生産の施策」）の中の「また、」以降に記載されているが、ウエイト的にはついでのような気がする。この対応は早くても5年、10年かかる話であり、ついでにできる話ではないので、1つの基本施策として取り組んでもらいたい。

事務局	まず、多面的な面については役割を記載します。また、ウメ輪紋ウイルス対策については、基本方針にあるとおり、1つの項目を立てて対応を進めていきたいと思います。
会長	他に。
委員	今まで、色々課題が出ていますが、先日の新聞報道で市立病院が優良な病院として表彰されている。そういうことも現状に書き加えてはどうでしょう。138,000人という目標人口を達成するためにも、こうした青梅のよさをアピールしてはと思う。
会長	課題ばかり強調していると、青梅にいいところがないみたいだから。医療は重要だから、少し誇って良いところは書いておく方がという意見です。
事務局	市民病院の受賞は今回が2回目になります。現状と課題で、自治体病院の中でも、非常に全国的にも頑張っている点について強調したいと思います。
会長	先ほど委員からありましたが、図書館について、河辺駅前に中央図書館を整備して利用者が倍増した理由は何なのか。その分析は今後の施策展開に重要なと思うが。
事務局	河辺駅前ということで、利便性がまず大きな点だと思います。開館時間も夜8時までということと、まだ不十分かもしませんが蔵書も含めて情報提供という部分が、これまでと比べて充実が図られたところが1つの要因だと分析しています。 また、お風呂や隣に商業施設もあり、駐車スペースを確保しているというところも大きな点かと思います。
会長	わかりました。
委員	総合長期計画は150ページ位になっているが、この内容をどうやって市民に理解してもらうかが大切なのは。第5次計画では必要な方に有料で配布していたと思うが、それでいいのか。少なくとも青梅市に住む6万世帯にこれが青梅市の10年間の計画だとアピールする積極性があってもいい。とても費用がかかるかも知れないが市民に伝える方法を考えてほしい。
会長	要望ですね。
事務局	全文の全戸配布というのは大変厳しいが、いわゆる概要的なもので、暮らしのガイドへの抜粋の記載、市ホームページでの提供、広報特集号の発行など様々な媒体を通じて、より多くの市民に方向性とともに、今後、作成します実施計画などにも結びつけて、周知したいと考えています。
会長	計画書を配布しても読まない人は読まないので、具体的に何か活動をやる場の呼びかけや設定があって、それが動き出すと目に見え

	<p>てくれればということではないか。</p> <p>私の経験だが、市民も参加してこれだけ踏み込んで計画策定をしているところはそんなにはないと思う。</p>
委員	<p>先ほどの追加的になりますが、10章かと思うがメディアを活用するという部分を盛り込んでおいてほしい。青梅市はかなり良いところがあり、テレビ、ラジオ、雑誌、新聞その他のメディアでもかなり取り上げられている。こうしたメディアにもっと積極的に情報を流し、かつ、市民が知れるような仕組みをもう少し考えていった方が、こうしたメディアからの情報で市民の気持ちが上がり、まちの活性化につながると思う。例えば、赤塚不二夫原作の映画が最近公開されたにも関わらず青梅では何の反応もない。あるいは青梅マラソンのスターであった吉田沙保里さんが金メダルを取ったが何の反応もない。金メダルを取ったときに青梅マラソンのスターが、庁舎の脇に何か掲示してもいいのでは。メディアの活用に関して青梅市は意識が低い。</p> <p>それと並行する形だと思いますが、アナログ的な口コミ的な地域情報ネットワークも重要であり、それを担うのは民生委員や自治会である。例えば自治会をそういった観点から全国に先駆けて改変していくのはどうか。少なくとも検討していってはどうか。人的情報ネットワークとして、今ある自治会を母体としながら、そこにスピード感を持っていろんな情報が伝わるというような仕組みを構築することを検討してはどうか。</p> <p>図書館について、図書館が情報交流ステーションとして生まれ変わり、情報発信がてきてより多くの人が来て、情報が集まるといったシステムが発展して行けばいいと思う。</p>
事務局	<p>情報提供、メディアの活用についての記載を、102ページ「観光施設・観光情報の充実」の中で、「シティーセールスの視点に立ち、インターネットをはじめ、あらゆるメディアの活用による情報発信、パブリシティに着目した情報提供」としています。また、第10章の情報推進・活用でも同様の記載について対応したいと考えています。</p> <p>オリンピックではありませんが、先日、パラリンピックで青梅市民の方が金メダルを取りましたので、横断幕等で優勝おめでとうということを情報発信したところです。</p>
会長	他にいかがでしょうか。
委員	<p>いつの間にかこうシティーセールスという概念が少し弱くなっている感じがする。シティーセールスに関して、青梅の人はセールスが下手だなど感じる。新潟県の長岡市などは1つの課を設置してシティーセールスに取り組んでいる。市役所だけではなく商工会議所、観光協会と連携しながらシティーセールスを積極的に展開すれば、それが企業誘致、観光誘致、住民の確保につながっていく。発信しない限りは戻ってこない訳ですから、シティーセールスという概念を、観光でもあるし雇用でもあるし、狭い範囲ではなく広く捉えながら、もう少し重点にしてほしい。</p>

会長	<p>青梅市には医療、教育、観光、自然といった魅力がある。そうしたものをどう伝えるのかがシティーセールスでは。</p> <p>他にいかがですか。よろしいでしょうか。</p> <p>今日は、第6次青梅市総合長期計画の原案が示されて議論していただきました。今日も活発に議論をいただきましたので、あるいは指摘をいただきましたので、事務局の方で更に推敲を加えて、先ほどスケジュールにありましたように、その推敲したものを議会に報告して行きたいと思います。</p> <p>次回は最終となりますけど11月2日に予定されています、ここでこの審議会としての答申案を審議したいと思います。また、異論なり色々なご意見が出ると思いますが、最後の議論のあとは、最終的には会長と副会長に一任いただいて、とりまとめたいと思います。その後、11月中旬頃を目処に、会長、副会長から市長に答申して、市は議案として体裁を整えて12月議会へ上程したいと考えています。</p> <p>それから第5回の審議会の際に皆さんからいただいた目標、宣言というのを事務局でとりまとめています。これを盛り込めることについては盛り込む予定ですが、盛り込むことができないものもあります。施策推進していく際に皆さんが考えた目標や宣言というのを答申とは別に審議会として色々議論した想いを、答申に盛り込めなくとも重要なものであるので別冊で市長に渡したいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>事務局から何かありますか。</p> <p>次回の審議会開催予定について説明</p> <p>それでは今日の第9回の審議会を終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>(散会)</p>
事務局	
会長	